

(様式1)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究(小・中学校)」
平成23年度委託事業完了報告書
【推進地域】

都道府県名	鳥取県	番号	31
-------	-----	----	----

推進地区名	推進校名	研究主題
鳥取市	福部中学校	I・Ⅲ型
倉吉市	西郷小学校	I・Ⅱ・Ⅲ型

○ 取組の概要

1. 重点課題への取組状況

(1) 平成23年度の重点課題

推進地域である本県の学力向上にかかわる主な課題として次の3点があげられる。

<課題と取組のポイント>

- ① 基礎的な知識・技能を活用する力や思考力・表現力などに関する課題
(言語活動の充実, 体験的・問題解決的な学習の促進)
- ② 主体的に学習に取り組むなど学習意欲の向上とそれを支える学びの集団作りに関する課題
(信頼関係・人間関係づくり, 学習規律の確立, 個に応じた指導の工夫)
- ③ 家庭での学習時間の確保や予習・復習の習慣化など学習習慣の定着に関する課題
(家庭学習の習慣化)

これらは, これまで実施した本県独自の学力調査や, 全国学力・学習状況調査の結果などから明らかになったもので, 県教育委員会としては重点的に学力向上施策に取り組んでいる。

加えて, 平成23年度は小学校において新学習指導要領の全面実施, 中学校においては次年度に新学習指導要領全面実施を控え, 新学習指導要領で重視されている言語活動の充実や学習評価の推進についても「鳥取県学校教育のめざすもの」として位置づけている。

これらのことを踏まえ, 本事業においては, 次の2点を重点課題として取組んだ。

- ①言語活動の充実を図る授業改善モデルの工夫
- ②主体的に学ぶ態度を育成する指導法の工夫

(2) 取組の内容

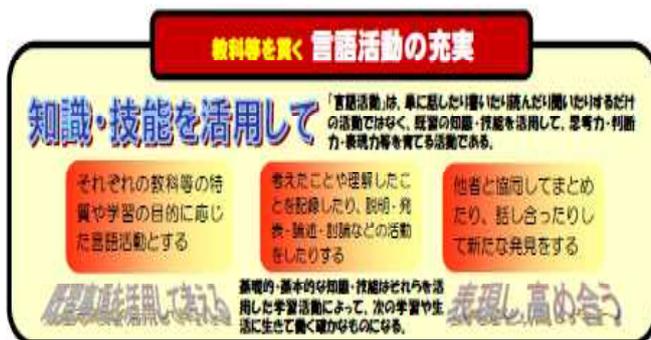
○平成23年度「鳥取県教育のめざすもの」提示

平成23年度「鳥取県学校教育のめざすもの」(冊子)を各校に配布。各教科等の全面実施のポイントや言語活動を位置づけた指導と評価等, 推進の具体的な取組の視点を明示。悉皆研修(全県学校代表)にて具体的に説明。

さらに、指導主事が学校訪問をする際の指導のよりどころとし、趣旨の徹底を図った。(以下の①②を特に重視)

①各教科等を貫く言語活動の充実

- 各教科等の「言語」や「言語活動」を明確にし、思考力・表現力などを育てるために既習事項を活用して考えたり、学び合いにより深め表現したりする学習活動を重視する。

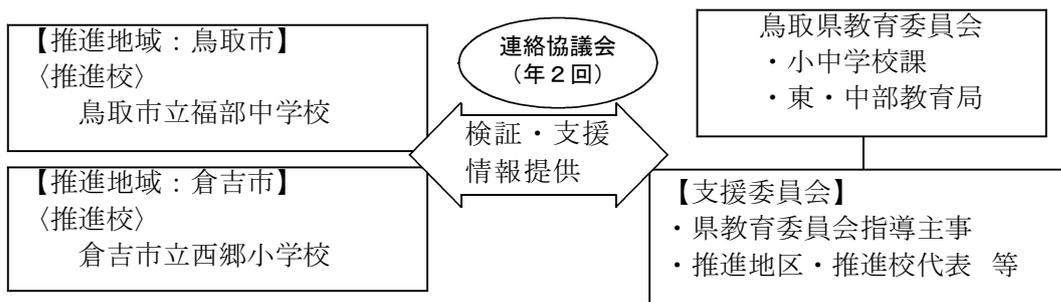


②見通しや振り返りの位置づけ

- 活用する力を培うために、児童生徒自身が数時間単位の学習や単元の見通しを立てて取り組むことや、学習の最後に自分は今回こういう学習をしたのだと振り返る活動を一層重視する。



○事業の推進体制



○実践研究にもとづく知見の抽出・発信

- 支援委員会 (連絡協議会) の設置
- 連絡協議会
 - 第1回 (事業計画の確認, 訪問支援) 鳥取市 (9月7日), 倉吉市 (9月16日)
 - 第2回 (実践内容の把握, 成果共有) 鳥取市 (3月15日), 倉吉市 (3月19日)
- 指導主事による要請訪問・授業研究会等による訪問指導 鳥取市 (5回), 倉吉市 (3回)
- 外部への公開による授業研究会
 - 鳥取市 (国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部長 角屋重樹氏を講師として招聘し実施)
 - 倉吉市 (国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部総括研究官・教育課程調査官・学力調査官 水戸部修治氏を講師として招聘し実施)
- 鳥取県教育研究大会 (平成24年2月7日実施 全校種, 一般県民を対象とし公開) 水戸部修治氏を講師招聘し, 倉吉市の取組を踏まえ新学習指導要領の趣旨を活かした学力向上の在り方について, 県下に広く周知・啓発を図った。

2. 調査研究の成果及び今後の課題

(1) 成果

小回りのきく本県の特徴を活かし、各教育局指導主事を中心とし、それぞれの推進地区及び推進校にたびたび訪問し、具体的に取組状況を確認し三者が共通の認識のもとに研究実践を推進できた。(具体的には以下のとおり。)

①言語活動の充実を図る授業改善モデルの工夫について

- ・「言語活動の授業への意図的位置づけ」を意識した単元構成と指導が有効であることが実践から明確になった。

■鳥取市：福部中学校

教科の枠を超えた実践研究。ワークシートを活用し授業内容を焦点化。書くこと、伝えること等により生徒の思考力、表現力等が育成された。

※「自分の考えや意見をノートにまとめることができる」「自分の考えや意見を人に伝えることができる」等についての年間2度のアンケート結果より、全ての学年で肯定的回答率が向上した。

■倉吉市：西郷小学校

「単元の目標」を達成し、「つけたい力」をつけるための単元を貫いた言語活動の導入により、活動に必然性が生じ、児童学習意欲が向上するとともに学力向上へとつながった。

※県診断テスト国語で高い正答率 5年：89% 6年：86%

②主体的に学ぶ態度を育成する指導法の工夫

- ・「学習プロセスの明確化」と「他者との関わり」の重視が主体的に学ぶ態度を育成する上で有効であることが実践から明らかになった。

■鳥取市：福部中学校

地域教材を積極的に活用し、学習を展開。その過程で「考える→書く→発表→評価→新たな課題」という学習プロセスを意識した授業を構成することにより課題意識が継続し、生徒の思考を深めるとともに主体的な学習が展開された。

■倉吉市：西郷小学校

「つけたい力」を明確にした単元構成のもと、指導内容を焦点化。その過程で、学習形態を工夫したり児童相互の「練り合い」を意図的に取り入れたりし、友だちとの関わりの中で自らの意見や考えを高めていく実践が展開された。

※アンケート 国語(国語好きな児童の割合)

H22. 12月 70.7% → H24. 2月 72.0%

(2) 課題

- ・本県では、教科を貫く言語活動の充実や学習意欲向上のための学習モデルの提示や啓発運動を他課・局とも連携しながら取り組んできたところだが、さらに連携を深めるとともに、指導案等の実践事例を収集し、具体的な授業レベルで広く県内小中学校に情報提供をしていくことが必要である。
- ・本県では、全国に先がけて平成24年度から小中学校の全学年で少人数学級が実施される。本研究の成果を少人数学級というベースの上で、どのように還元していくのか、また、推進校等でどのように発展させていくのかが、今後求められる。

(様式1)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
 「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究(小・中学校)」
 平成23年度委託事業完了報告書
 【推進地域】

都道府県名	広島県	番号	34
-------	-----	----	----

推進地区名	推進校名	研究主題
福山市	手城小学校	I型
福山市	御幸小学校	I型
福山市	神辺小学校	I型
三原市	沼田東小学校	II型
三原市	第五中学校	II型

○ 取組の概要

1. 重点課題への取組状況

(1) 広島県の重点課題

本県では、基礎的・基本的な知識や技能については、おおむね身に付いているが、知識・技能を活用し様々な課題解決するために必要な思考力・表現力や、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などは、継続的な課題となっている。また、学習意欲や学習習慣の定着にも課題があり、家庭学習の意義や方法についても丁寧に繰り返し指導していくことが必要だと考えている。

そこで、県内の福山市と三原市を研究推進地区に指定し、推進校を中心に研究を進めた。

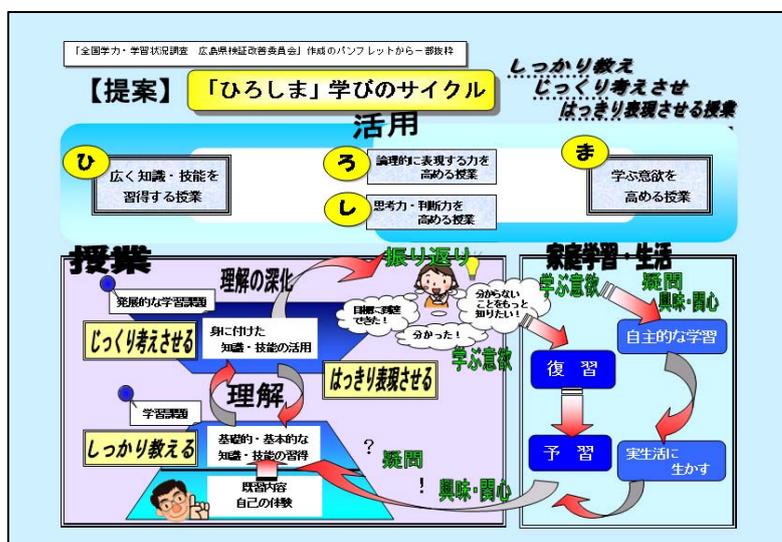


図1 「ひろしま」学びのサイクル

(2) 取組の重点

図1に示す「ひろしま」学びのサイクルに基づき、児童生徒に、知識・技能を活用して思考力・表現力を育成するための授業改善を行うとともに、授業で学んだことを家庭学習や自分の生活に生かすという学びのサイクルによって、次の2点の効果的な手立てを取組の重点とした。

- 思考力等を育成するための言語活動の充実を通じた指導改善の方法及び内容の研究
- 学習習慣の定着を目指した効果的な指導方法及び内容の研究

(3) 取組状況

① 推進地域協議会の開催

表1に示すとおり各推進地区において、各2回、教育事務所指導主事（三原推進地区のみ）及び市教育委員会指導主事とともに、管理職及び研究担当者（教務主任・研究主任等）と推進地域協議会を行った。そこでは、事業の趣旨の理解を深め、研究の方向性について検討するとともに、取組の成果や課題について協議した。

表1 推進地域協議会の開催状況

推進地域協議会	内 容	実施日	
		福山推進地区	三原推進地区
第1回	・事業の趣旨説明 ・推進校及び推進地区の取組についての交流	7月15日	8月14日
第2回	・推進校及び推進地区の取組についての報告・協議	11月24日	12月9日

② 推進地区・推進校への指導・助言

表2に示すとおり各推進地区の推進校への訪問指導を実施した。各推進校の校内研修会（授業研究・研究協議）及び公開研究会において、今年度の研究の進捗状況等を確認するとともに、授業改善や校内研修の充実のための指導・助言を行った。

表2 推進地区・推進校への訪問指導の状況

福山推進地区			三原推進地区		
6月16日	御幸小	研究授業・研究協議	7月5日	沼田東小	研究授業・研究協議
6月23日	手城小	研究授業・研究協議	9月30日	沼田東小	公開研究会
10月24日	御幸小	公開研究会	10月26日	第五中	研究授業・研究協議
10月25日	神辺小	公開研究会	11月27日	第五中	公開研究会
11月2日	手城小	公開研究会	12月9日	第五中	研究授業・研究協議
11月2日	神辺小	研究授業・研究協議	12月9日	沼田東小	研究授業・研究協議
11月17日	手城小	研究授業・研究協議	1月31日	第五中	研究授業・研究協議
11月24日	御幸小	研究授業・研究協議			

③ 学力向上のための実践交流会～思考力・表現力を高めるための指導の在り方～

平成24年1月7日(土)に、広島大学において、県内の教職員、教育委員会関係者を対象に、授業改善の具体的な手立てを県内に普及し、本県教育の充実を図ることを目的に、学力向上のための実践交流会を開催した。



図2 実践発表の様子

福山推進地区及び三原推進地区の各推進校が、これまでの研究成果について実践発表を行った。

④ 広島県教育委員会ホームページへの研究情報の普及

広島県教育委員会ホームページにおいて、学力向上のための実践交流会における実践発表資料を掲載し、成果の普及を図っている。

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/h23gakuryokusatake.html>

2. 調査研究の成果及び今後の課題

(1) 研究の進捗状況及び授業改善の状況

福山推進地区においては、「つまずき状況把握」「改善ポイントの明確化」「研究授業」「視点を明確にした研究協議」「評価問題による検証と分析」という授業改善サイクルに基づいた授業を確実に実施した。

福山市立御幸小学校では、小学校第3学年算数科における「評価問題について～誤答分析から見えてくる課題～」として、授業改善サイクルに基づいた「評価問題による検証と分析」の実践が報告された。誤ったかけ算の筆算を正しく直し、それを説明する評価問題において、つまずいている児童一人一人の、思考・判断する過程における誤答をカテゴリー別に分析し、そのことによつて見えてきた課題から、重点的に指導すべき内容をまとめている。

他校においても、思考力や表現力を問うようなつまずきの大きい課題に対し、授業改善サイクルに基づいた授業を確実に実施し、授業改善を図っていることが研究のまとめや学習指導案等からうかがえる。

三原市推進地区においては、授業と家庭学習(予習や復習)とを効果的につなげる「学びのサイクル」における基本的な授業の流れを作成し、小・中学校共通の取組として実施した。

三原市立沼田東小学校では、第2学年算数科の「三角形と四角形」の方眼紙を使って、直角三角形をかく方法を考える授業において、家庭学習(予習や復習)を効果的につなげる授業が実践された。学習指導案にも予習・復習の内容が明確に記述されており、授業を通して学習習慣の定着を図っている。

三原市立第五中学校においても、授業の中で家庭学習(予習や復習)が位置付けられていることが、研究のまとめや学習指導案等からうかがえる。

これらのことから、両推進地区において、研究が組織的に行われ、授業改善が図られたといえる。

(2) 学力調査による検証

福山推進地区の各推進校（手城小学校，御幸小学校，神辺小学校）において，自校の課題が固定化している教科の領域について，平成 22 年度 1 月及び平成 23 年度 1 月実施の CRT 検査による全国平均と自校との差を比較した。

表 3 に示すように，平成 22 年度から平成 23 年度にかけて，各項目とも伸びが見られることから，各推進校において，自校の課題が固定化している教科の領域については，一定の成果があったといえる。

表 3 平成 22 年度及び平成 23 年度の CRT 検査による各推進校の状況

学校名	教科	領域	平成 22 年度		平成 23 年度		伸び
			学年	全国との差	学年	全国との差	
手城小学校	国語	読むこと	小 3	-3.1	小 4	4.5	7.6
			小 5	0.7	小 6	6.6	5.9
御幸小学校	算数	全領域	小 3	-2.0	小 4	0.0	2.0
			小 5	11.0	小 6	12.0	1.0
神辺小学校	国語	読むこと	小 1	-2.0	小 2	0.8	2.8
	算数	数と計算	小 3	-3.0	小 4	-0.2	2.8
		図形	小 5	-1.8	小 6	3.4	5.2

また，三原推進地区の各推進校において，児童生徒に意識調査を行い，予習及び復習をしているかを質問し，その肯定的回答の割合について検証した。表 4 には，自校アンケートによる沼田東小学校の状況を示した。表 5 には，平成 22 年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査（平成 22 年 4 月実施）と平成 23 年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査（平成 23 年 9 月実施）による第五中学校の状況を示した。

表 4 予習・復習をしている児童の割合

沼田東小学校	平成 23 年 5 月	平成 23 年 2 月	伸び
予習をしている	37.3	72.5	35.2
復習をしている	66.5	78.1	11.6

表 5 予習・復習をしている生徒の割合

第五中学校	平成 22 年 4 月	平成 23 年 9 月	伸び
予習をしている	16.4	14.2	-2.2
復習をしている	22.6	35.9	13.3

その結果，沼田東小学校においては，予習・復習とも伸びが見られ，一定の成果があったが，第五中学校は，予習において，伸びが見られなかった。これは，予習の取組が教師主導で行われていることが原因と考えられる。

さらに，算数及び数学における課題のあった学習内容の定着状況について，6 月に実施した県の学力調査である平成 23 年度「基礎・基本」定着状況調査と，その後実施した同様の問題（沼田東小学校：11 月実施，第五中学校 12 月実施）を比較・検証した。表 6 に沼田東小学校の状況を，表 7 に第五中学校の状況を示す。

表6 学習内容の定着状況（沼田東小）

設問	6月	11月	伸び
重さの比較	59.7	80.6	20.9
伴って変わる 数量1	72.6	76.4	3.8
伴って変わる 数量2	40.3	72.2	31.9

表7 学習内容の定着状況（第五中）

領域	6月	12月	伸び
図形	65.4	68.0	2.6
数と式	74.7	86.9	12.2

その結果、沼田東小学校、第五中学校ともに課題のあった学習内容について伸びが見られた。

これらのことから、中学校の学習習慣に課題が見られるが、全体として一定の成果があったといえる。

（3）今後に向けて

この度の研究の成果は、平成24年度全国学力・学習状況調査及び平成24年度「基礎・基本」定着状況調査において明確に表れることから、引き続き研究を継続し、取組の効果について検証する必要がある。

事業が終わっても、日常的な習慣として、授業研究、評価問題の作成、家庭学習の充実の取組を続けるという意識をもって研究を進め、効果が顕著な事例等は広島県教育委員会ホームページなどで広く全県へ普及を図りたいと考えている。

(様式1)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究(小・中学校)」
平成23年度委託事業完了報告書
【推進地域】

都道府県名	山口県	番号	35
-------	-----	----	----

推進地区名	推進校名	研究主題
岩国市	岩国市立川下小学校	I, II, V型
山口市	山口市立德佐小学校	I, II, III型
宇部市	宇部市立琴芝小学校	I型
下関市	下関市立長府中学校	I, II, V型

○ 取組の概要

1 重点課題への取組状況

本県では、これまでの全国学力・学習状況調査結果や各学校の取組状況等の分析をとおして、以下3点学力課題から、学校における4つの重点取組事項を設定し、実践を行ってきた。

【学力の課題】

- 学習意欲の向上
- 活用する力の育成
- 家庭学習への意欲的な取組

【学校の重点取組事項】

- ① 学校の組織的な取組の強化
- ② 教員の授業力の向上
- ③ 学習内容の充実と指導の工夫改善
- ④ 家庭・地域社会との連携

(1) 学力向上に向けた取組の方向性

児童生徒一人ひとりの学力の向上に向けては、学校全体による組織的な研修の取組を通して指導方法の工夫改善を図り、教員の授業力を高める。また、落ち着いて学習に取り組める環境を整えるとともに、家庭・地域社会との連携も図りながら、授業改善を進めていく。

(2) めざす子ども像

- ・ 自らの夢の実現に向け、進んで学習に取り組む子ども
- ・ 知識や技能を活用して、考え、判断し、表現する子ども
- ・ 自分で計画を立て、家庭学習に積極的に取り組む子ども

【取組概要】

実施時期	支援委員会・推進地域支援事項	備考(推進地区等)
4月	・調査研究計画の確認	・H22の課題解決に基づく取組
5月	・推進地域・推進地区・推進校における共通理解 ・18日 「やまぐち学習支援プログラム」活用研究協議会の開催(県の重点取組事項の確認)	
6月	・2日 「やまぐち学習支援プログラム」教材作成委員会の開催(県の重点取組事項の徹底)	・各地域の実情に応じた取組の普及
7月	・教材の拡充, 基礎基本問題の提供(「やまぐち学習支援プログラム」教材作成委員会との連携)	
8月		・調査研究の中間まとめ
9月		
10月	・20日 山口市立徳左小学校訪問 ・28日 宇部市立琴芝小学校訪問 ・31日 岩国市立川下小学校訪問	・授業公開(徳左小) ・授業公開(琴芝小) ・授業公開(川下小)
11月	・18日 下関市立長府中学校訪問	・授業公開(長府中)
12月	・「やまぐちっ子学力向上だより」での各校の取組紹介	(推進地区への普及)
1月	・各学校の取組状況のWeb公開	・調査研究のまとめ
2月	・成果報告会開催(山口県庁)	・研究のまとめ作成
3月	・研究のまとめ作成	

2 取組の成果及び今後の課題

(1) 推進地域の取組の成果

ア 学習状況について

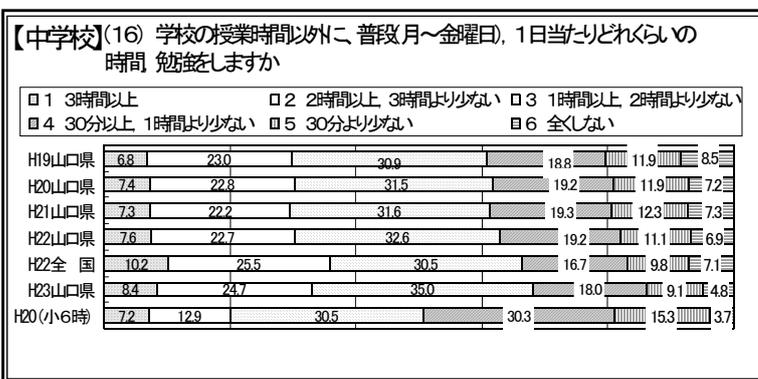
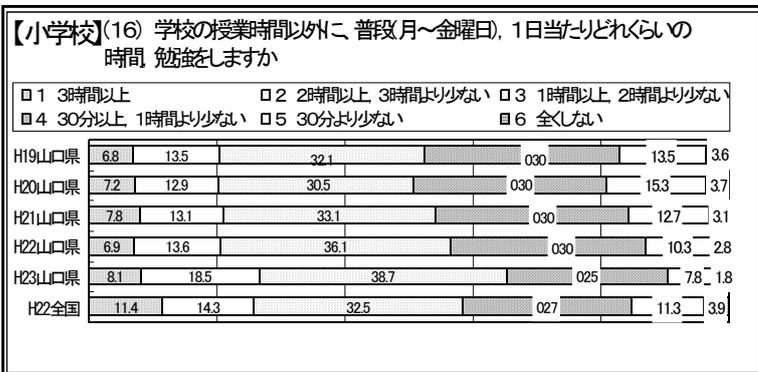
平成23年度全国学力・学習状況調査活用の結果, 「学校の授業時間以外に, 普段, 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか」の問いに対する回答を見ると, 1時間以上勉強する児童生徒の割合が前年度より向上している。

(H22年度 小学校: 56.6%, 中学校: 66.2%/H23年度 小学校: 65.3%, 中学校68.1%)

小中とも, 平成19年度の調査開始以来, 最も高い数値となった。

推進校をはじめとし, 学校での授業と家庭での学習をつなげるために, 児童生徒の興味・関心を高める学習課題の設定や, ノート指導の充実などに努めてきた成果であると分析している。

今後は, 推進校の作成した研究冊子の配布やWebページの積極的な紹介などを行い, 取組の成果を推進地区に広く普及することにより, さらなる授業改善を支援



し、児童生徒の学習意欲の向上を一層促進していきたい。

また、児童生徒が自らの考えを表現できる授業に取り組んできた結果、「普通の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思うか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、年々増加してきている。(H22年度 小学校：84.6%，中学校：79.5%/H23年度 小学校：86.5%，中学校85.5%)

推進校の取組については、徳佐小学校では、単元を通じた言語活動の設定により、子どもが自分の考えを積極的に発言できるようになったといった報告がある。

琴芝小学校では、学び合いのある場を授業に取り入れることにより、子どもがグループで積極的に意見交換し合い、それぞれの学びを深め合ったという報告がある。

さらに、長府中学校では、ホワイトボードの活用など、教具の使い方を工夫することにより、課題解決のプロセスを授業の中核に据えたという報告もあった。

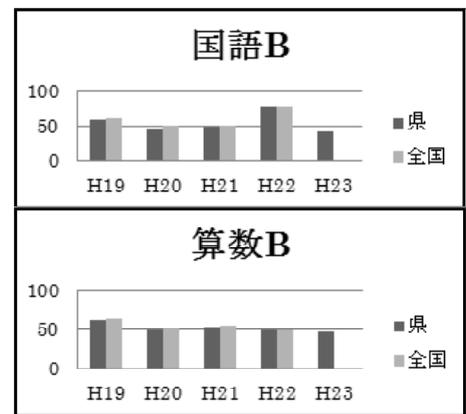
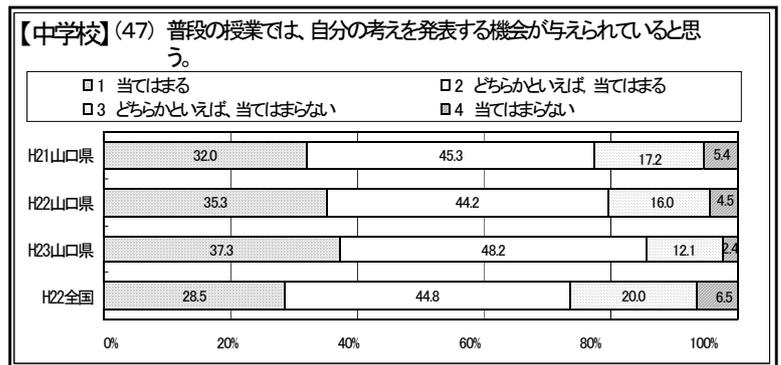
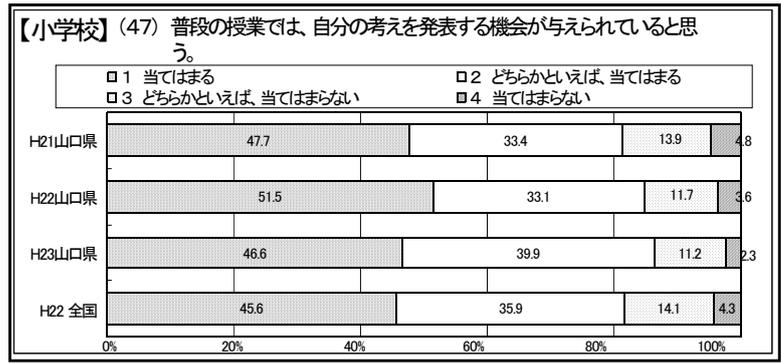
このように、児童生徒が進んで表現し合う授業づくりに、推進地域全体で取り組むことにより、思考力・判断力・表現力等の育成が図られている。

イ 学力状況について

推進地区での取組を県発行の学力向上だより等で紹介するなどして、県内での共有化を図ってきた。こうした県内での取組は、全国学力・学習状況調査開始の翌年に当たる平成20年度から継続的に進めており、調査の結果・分析の結果や、今後の改善策などを各学校に届けることにより、組織的な取組を強化しているところである。

特に、数年来県の課題として重点的に取り組んでいる活用する力の育成に関しては、話し合いの場や話し合いを振り返って自分の考えを書く場などを計画的に位置付けるなど、授業改善の手だての共有化を意識的に図ってきた。

その結果、児童生徒が自ら考え、表現し、友達と考えを交流し合う授業を日常的に行う学校が増えてくるにつれて、全国学力調査のB問題の正答率にも変化が見え始めた。特に小学校においては、平成19年度から3年間は、全国の平均正答率と比較して、県の平均正答率が下回っていたが、平成22年度は、初めて全国を上回っている。平成23年度は全国との比較ができなかったものの、授業改善が継続的に進んでいることから、



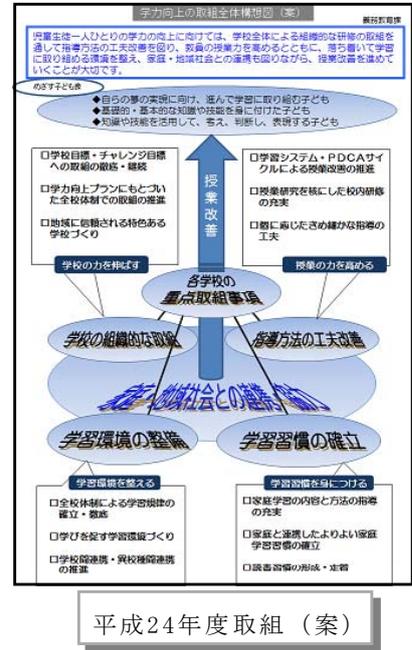
小学校 B 問題正答率の推移

今後も、推進校の取り組みを一層広めていくことにより、さらなる学力向上を図っていくこととしている。

一方、中学校の授業改善については、小学校と比較して、まだ一斉指導中心の傾向が見られるため、授業改善の具体的な指針を示すなどして、教師の意識改革を図っていくことが必要である。

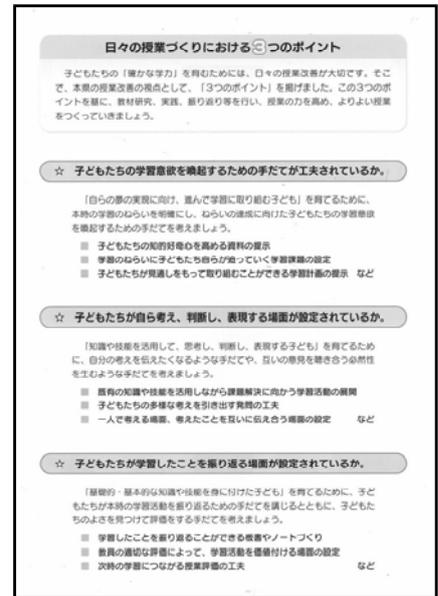
(2) 推進地域の取組の課題

- 全国学力調査問題の活用状況を見ると、課題を有する地区に偏りがある。今後さらに、課題のある地区への支援が必要である。
- 各学校の取組が、県の重点取組事項に関連するよう、学校と市町教委、県教委のさらなる連携が必要である。
- 中学校における授業改善を図るために、小中連携の一層の推進が必要である。
- 課題の見られた領域や単元の指導における「やまぐち学習支援プログラム」の活用を促すことが必要である。
- 学力上位層の引き上げに関する指導の充実が必要である。
- 自主的・計画的な家庭学習習慣の形成がさらに必要である。



(3) 今後の取組について

- ① 学校の組織的な取組の強化
 - ・ 学校目標・チャレンジ目標への取組の徹底・継続
 - ・ 学力向上プランに基づいた全校体制での取組推進
 - ・ 地域に信頼される特色ある学校づくり
- ② 指導方法の工夫改善
 - ・ 学習システム・PDCAサイクルによる授業改善
 - ・ 授業研究を核にした校内研修の充実
(特に小中連携が必要)
 - ・ 個に応じたきめ細かな指導の工夫
- ③ 学習環境の整備
 - ・ 全校体制による学習規律の確立・徹底
 - ・ 学びを促す学習環境づくり
 - ・ 学校間連携・異校種間連携の推進



(様式1)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究(小・中学校)」
平成23年度委託事業完了報告書
【推進地域】

都道府県名	徳島県	番号	36
-------	-----	----	----

推進地区名	推進校名	研究主題
吉野川市	吉野川市立知恵島小学校	I, II, V型
	吉野川市立川島中学校	I, II型

○ 取組の概要

1 重点課題への取組状況

(1) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

本県では「言語活動の充実～全ての教科等において、書く・話す活動の充実を図る～」を重点課題として、これまでの取組を見直し、今後より充実させるべき内容を明確にし、さらなる授業改善が図られるよう各研修会等さまざまな機会を通じて具体的な方策等の提示を行った。

○学力向上推進員研修会(6月, 3月)

○国語科「国語指導力向上講座」(7月)

○算数科「算数科『活用する力』を高める授業実践講座」(7月)

○数学科「数学科『活用する力』を高める授業実践講座」(7月)

(2) 「習得・活用・探究」の学習活動の充実

特に、総合的な学習の時間を中心として、教科等の枠を超えた横断的・総合的な課題について、各教科等で習得した知識・技能を相互に関連付けながら解決するなどの探究活動の質的な充実を図った学習活動を推進した。

(3) 児童生徒の主体的な活動の活性化と学習意欲の向上

全国学力調査問題や徳島県学カステップアップテスト問題、県立中学校適性検査問題、国語、算数・数学の「活用する力を育成する問題」等を含めた、CD版「学力向上に関する資料集 第6版」を作成・配布し、教材やワークシート等の工夫、きめ細やかな指導、少人数指導の充実を推進した。

また、平成22年度に引き続き、児童生徒自らが知・徳・体においてそれぞれ目標とする宣言を定め、宣言に基づいた活動を展開する「阿波っ子すだち(巣立ち)宣言」プロジェクトを全ての公立小中学校において推進した。

(4) 家庭学習の習慣づけと家庭との連携

学校全体で教師が家庭学習の課題について共通の認識をもち、適切に評価するとともに、各校で作成した「家庭学習の手引」の有効な活用を推進することにより、家庭との一層の連携の構築が図られるよう推進した。

(5) 推進校の研究成果等の普及

県内における教育に関するネットワークを築き、幼稚園・小学校・中学校・高

等学校・特別支援学校の学力向上のための取組と成果の普及を図るため、平成24年1月5日に県教育委員会が主催した「あわ(OUR)教育発表会」及び平成24年3月2日の第2回学力向上推進員研修会において、各推進校が実践内容と成果について発表を行い普及に努めた。

また、各推進校で作成した学力向上に関する資料等をまとめ、「学力向上に関する資料集第6版」に収録し、第2回学力向上推進員研修会において、作成のCDについて説明の上、配付し、活用を促した。

(6) 学力向上に向けた検証改善サイクル

平成23年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等を利用し、平成23年9月27日を標準実施日とした「徳島県独自調査」や平成23年12月7日実施の「徳島県学力ステップアップテスト」を活用し、各学校におけるPDCAサイクルの確立を推進した。

2 調査研究の成果及び今後の課題

(1) 推進校における実践研究の成果

(学校版：「学力・学習状況」改善プランから一部抜粋)

①知恵島小学校

【学力についての重点目標】

語彙力を高め、「書く力」の基礎を養うことにより、各教科に活用できる思考力・表現力を伸ばす。

【成果】

- ・年5回の漢字の振り返りテストを実施した結果、全体の9割以上の児童が、数値目標（8割以上の正解）を達成できた。
- ・中高学年において、書く力のチェックリストを作成し各学年に応じた目標に対して、約5割の児童が年度当初よりもポイントを上げた。
- ・低学年において、各学年で決めた目標冊数（1年生100冊、2年生80冊）について、全員の児童が目標を達成できた。

【学習状況についての重点目標】

家庭学習習慣を身につけさせる。

【成果】

- ・各学年の目標（低学年20分以上、中学年30分以上、高学年40分以上）に対して、全体の8割以上の児童が目標を達成できた。

②川島中学校

【学力についての重点目標】

言語感覚を豊かにし、自分の考えを効果的に表現できるようにする。

【成果】

- ・単元ごとの小テスト等を実施し生徒の学習状況をこまめに見取りつまずきの早期発見に努めた結果、70点以上の目標に対して約70%の生徒が達成した。
- ・読書意欲を高めるために読書紹介を積極的に行い、様々な分野の本に触れさせた結果、全体の約80%の生徒が「読書が好き」と回答した。

【学習状況についての重点目標】

生徒自らが主体的に学習に取り組む力の育成

【成果】

各教科の課題提出率90%を目指し、保護者アンケート等の回答を活用した結果、全体の70%の生徒が目標を達成した。

(2) 推進地域全体としての成果と課題

平成23年9月27日を標準実施日として実施した「徳島県独自調査」については、実施時期が9月下旬から10月上旬であり、これまでの全国学力・学習状況調査結果と単純に比較することはできないが、「徳島県独自調査」の結果と過去の本県の調査結果から、次のような成果が見られた。

【小学校国語】

- ・漢字に関する基礎的・基本的な知識の定着が見られた。
- ・「書くこと」の領域において、これまでの正答率よりも向上した。

【小学校算数】

- ・四則の混合した計算において、これまでの結果よりも向上した。
- ・整数と小数の除法の計算において、これまで7割程度であった正答率が8割を超えた。

【中学校国語】

- ・全体的に無解答が減少し、課題に対して誠実に解答していた。
- ・昨年度課題であった敬語に関する問題の正答率が約20ポイント向上した。

【中学校数学】

- ・連立方程式の解の意味理解において、過去の結果よりも約10ポイント向上した。
- ・反比例のグラフをかくことが、過去の結果よりも約15ポイント向上した。
- ・投影図から空間図形を読み取ることが、正答率85%を超えた。

【小学校学習状況】※比較対象は平成22年度調査における県平均

- ・平日授業以外に1時間以上勉強する児童が4ポイント近く増加した。
- ・休日の勉強時間が1時間未満の児童が3ポイント減少し、1時間以上勉強するのそれぞれの選択肢において増加した。

【中学校学習状況】※比較対象は平成22年度調査における県平均

- ・平日授業以外に1時間以上勉強する生徒が約10ポイント増加した。
- ・休日の勉強時間が3時間以上の生徒が約18ポイント増加した。

また、本研究の重点課題の「児童生徒の主体的な活動の活性化」及び「家庭学習の習慣づけと家庭との連携」については、平成22年度全国学力・学習状況調査結果と比較し次のような成果と課題が見られた。

【中学校生徒質問紙】「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合(%)

質問事項	H22(4月)	H23(9月)	差
普段の授業では、生徒間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。	8.5	10.7	2.2
	14.9	31.1	15.2

【小学校学校質問紙】「よく行った」「どちらかといえば行った」の割合(%)

質問事項	H22(4月)	H23(9月)	差	
教科の指導として、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。	国語	76.6	88.1	11.5
	算数	74.4	87.5	13.1
教科の指導として、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか。	国語	83.4	95.9	12.5
	算数	83.4	94.2	10.8

教科の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行いましたか。	国語	92.4	98.4	6.0
	算数	89.1	97.9	8.8

【中学校学校質問紙】「よく行った」「どちらかといえば行った」の割合 (%)

質問事項		H22(4月)	H23(9月)	差
教科の指導として、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。	国語	62.2	69.4	7.2
	数学	60.5	62.4	1.9
教科の指導として、保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか。	国語	68.8	63.7	-5.1
	数学	65.6	57.7	-7.9
教科の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行いましたか。	国語	95.1	94.1	-1.0
	数学	91.8	94.1	2.3

徳島県独自調査結果から、各教科に共通な課題及び質問紙調査結果から明らかとなった課題として次のような事柄が見られた。

- 文章量が多い問題文の内容を捉えたり条件を正確に読み取ったりすること。
- 記述式の問題において、文章から必要な情報を取り出して再構成したり条件に即して自分の考えを説明したりすること。
- 特に記述式の問題における無解答率が高い。
- 小学校国語B問題において、解答時間が不足した児童が増加した。
- 中学校において、家庭での宿題や予習など家庭学習時間が減少し、家庭に対するの家庭学習を促すような働きかけについても減少した。

(3) 今後の課題

本県の重点課題としている

- ①知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- ②「習得・活用・探究」の学習活動の充実
- ③児童生徒の主体的な活動の活性化と学習意欲の向上
- ④家庭学習の習慣づけと家庭との連携

について、本年度の取組の検証からそれぞれ成果が見られた取組及び詳細な分析結果に基づく課題解決に向けた具体的な方策について、今後とも各種研修会等を通じて周知を行い、学力向上に向けた検証改善サイクルの確立を一層図り、学習指導の改善・充実に取り組みたいと考えている。